OLS：osteoporosis liaison service（骨粗鬆症リエゾンサービス）

# OLSかわら版

年2回発行
第 9 号
2021年
2月26日発行

CONTENTS

OLS 活動奨励賞 p1
コラム p2
第 22 回 日本骨粗鬆症学会
OLS かわら版編集チーム推薦演題 p3, 4
学会からのお知らせ p4

編集・発行：日本骨粗鬆症学会　〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 5-7 トウセン小舟町ビル 3F　TEL 03-5645-8611 FAX 03-5645-8612　制作：（株）メディカルレビュー社

OLS活動奨励賞

## 循環型医療連携をめざした急性期基幹病院での骨粗鬆症リエゾンサービスの構築

北九州総合病院事務部
石井直美

### はじめに

当院は，急性期基幹病院であるが，多職種の専門性を生かしながら「治療開始」と「治療継続」を目的に 2018 年より OLS を開始し，回復期病院や地域開業医と連携する「循環型医療連携」を行っている．OLS チームは，医師，薬剤師，看護師，リハビリセラピスト，放射線技師，医師事務作業補助者など 14 名で構成され，うち 8 名は骨粗鬆症マネージャーの資格を有する．

### 入院患者への取り組み

クリニカルパスを見直し，大腿骨近位部骨折，脊椎椎体骨折および脆弱性骨盤骨折患者で骨粗鬆症の治療が行われていない患者には，DXA などの評価後，速やかに薬の投与を開始している．治療薬は，患者の腎機能を評価して問題なければ，エビデンスの高い薬から処方するなどのアルゴリズムを定めた．チームの薬剤師はこれに沿って，薬の選択や変更を医師に提案し，承認の後，ベッドサイドで服薬指導を行う．腎機能障害などで，治療開始に至らないケースもあるものの，速やかに標準的な治療を開始できるようになり，退院時の骨粗鬆症治療率は，OLS 導入前の 11.4％（脊椎椎体骨折 4.1％，大腿骨近位部骨折 7.3％）から，96％へと飛躍的に向上した．また，入院患者を対象に，病棟で医師や骨粗鬆症マネージャーによる骨粗鬆症教室を開催しており，疾患や治療薬，DXA などの説明を行い，患者教育の場としている．

服薬指導や骨粗鬆症教室などの活動を，各専門職が役割分担することで，短い在院期間中に患者教育が可能となった．退院した患者の 6 カ月後の追跡調査では，治療継続率は 89％であり，入院中の患者教育は評価できる．なお，週 1 回の総回診では，多職種（薬剤師，看護師，リハビリセラピスト，ソーシャルワーカーなど）と，4 つの回復期病院の担当者が参加しながら，患者の状態や治療経過について「on the job で情報共有」を行っており，いずれの病院に患者が転院することになっても円滑に引き継ぐことが可能である．さらに，この取り組みは，骨粗鬆症治療の継続を確実にしている．

### 外来患者への取り組み

週 1 回午後から骨粗鬆症専門外来では，健診および確定診断された患者の治療をチームで行っている．薬の導入や変更が必要な際は，隣室で骨粗鬆症マネージャーが患者への説明を補う．専門外来では，年間に延べ約 900 人の患者を診察するが，医師事務作業補助者や骨粗鬆症マネージャーの補助が，医師の負担を軽減しつつ，丁寧な外来診療を実現している．また，チームのリハビリセラピストは，6 カ月ごとに行う DXA と同日に，患者の「握力」「10m 歩行」「30 秒椅子立ち上がり」などの運動機能を評価し，「転倒予防」としてリハビリの助言を行っている．測定結果は，骨密度の結果とともに，患者に配布している骨粗鬆症手帳へ記載され，時系列で確認できるようになっており，医師や骨粗鬆症マネージャーによる指導に役立つほか，患者のモチベーション維持につながっている．同時に，かつては 3 カ月ごとに薬を処方し，検査フォローしていた患者を本人や付き添い家族の通院負担や急性期基幹病院の役割を考慮し，かかりつけ医で治療薬を処方してもらえるよう，病診連携（循環型医療連携）を進める方針に転換した．検査結果などを記載した報告書は，診察室で診療補助につく医師事務作業補助者が仮作成し，医師の確認後に遅延なく連携施設へ郵送で届けられている．

循環型医療連携は，積極的にかかりつけ医との連携を推進した結果，ここ 1 年間では，130 施設と連携（連携率 58％＝ $\frac{\text{連携率}}{\text{全体数}}$ ）しているが，全体の継続率は 93％と高い．患者の通院回数を減らすことで，患者や付き添い家族の通院，医療費負担が軽減され，継続率の向上につながっていると推測する．また，治療内容を共有することで，患者はかかりつけ医のもとで安心して骨粗鬆症治療が受けられるようになった．

### 当院での治療を希望する患者への対応

当院のデータでは，循環型医療連携のほうがドロップアウト率は低いことがわかっている（図 1）．しかし，かかりつけ医が当院（他科）や，設備が整った当院での治療を望む患者も多い．骨粗鬆症治療薬は，長期間継続することが重要であり，かかりつけ医で処方してもらうことが望ましい．そこで，リーフレットを作成し（図 2），医師事務作業補助者が中心となり，下記の 5 つのメリットを説明している．①かかりつけ医で治療継続が可能，②治療内容をかかりつけ医と共有して安全で安心な治療が受けられる，③通院負担の軽減，④ 6 カ月ごとの精密検査で治療効果を確認，⑤体調不良や骨折などの際は当院で治療可能．また，DXA が可能な整形外科クリニックも増えており，これらを一覧にし，患者の希望に沿った医療機関の選択ができるように努めている．

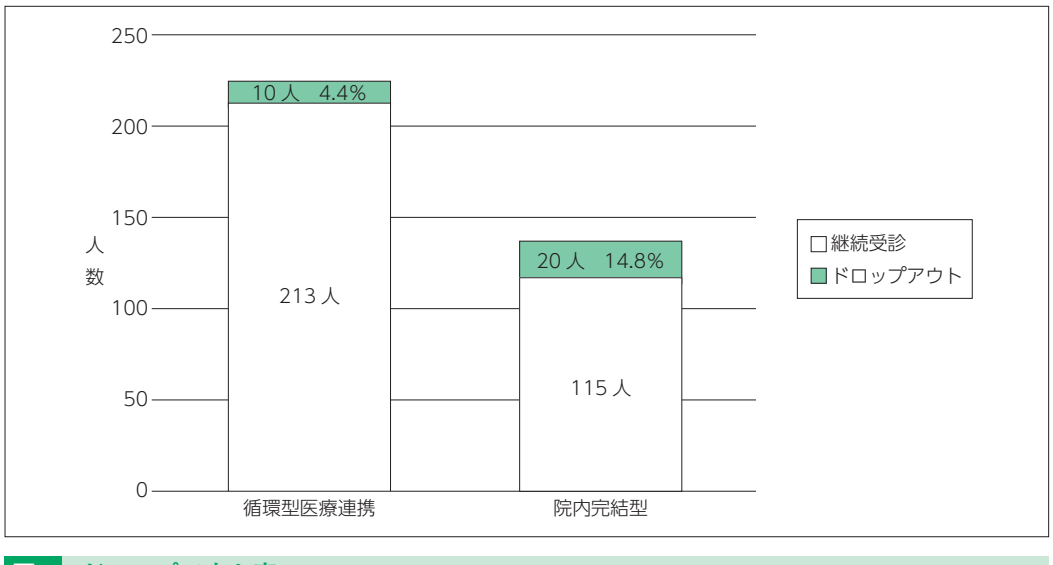


図 1　ドロップアウト率

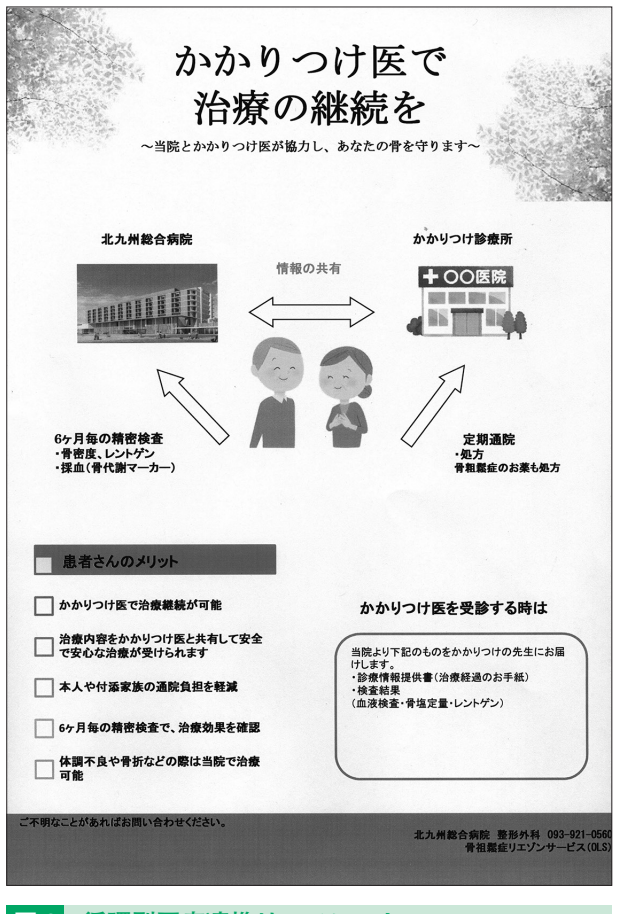


図 2　循環型医療連携リーフレット

～column～

# コロナ災禍のもとだからこそ立ち上がった“OLS Café@WEB”から得たもの

宮原富士子
特定非営利活動法人 Healty Aging Projects for Women（NPO法人 HAP）

2020年3月以降，ほぼすべての学会活動，講演活動，研修会が五月雨式に止まっていった．

前代未聞の災禍である．いかに，今までの学会・講演・研修が，「人が集まる」ことを前提に行われたかを痛感することになったわけである．NPO法人HAPでは，女性の健康支援にかかわる啓発・教育・研究と薬剤師教育の2本立ての活動を継続していたが，その特質からも会員や研修などに参加するものの男女比は女性が多く，移動を伴う参加が難しいと指摘される場面も経験していたので，いち早く研修のWEB化の仕組みを構築したところ，予想以上の参加者，多様な参加者で新たな一面が開けることになった．

**OLS骨粗鬆症リエゾンサービス学びの会**
**略称 OLS Café**

## WEB Café の立ち上げの背景と目的

2020年8月27日より，骨粗鬆症による骨折の初発を防ぎ，再骨折を防ぎ，人生謳歌して自分らしく生きることを応援するOLSチームが学び語り合い，知恵と技を共有するWEBカフェサロンの立上げを企画した．浅草からもほど近く，OLSの病院と地域活動で名を馳せておられる聖隷佐倉民病院の加藤木丈英理学療法士にも参加いただき，さまざまな視点を養おうと計画したものである．HAPのメンバーは薬剤師が多いため，協働を目指して，他職の方との交わりを大事にして，他の職種の方がどのような仕事をしているのかを知る機会ともしようと考えた．浅草のリエゾンチームでは，今まで，主に渡會公治先生とともにあさくさ渡會美立ロコモ道場を開設し，毎月市民向けの講座を開催していて，地元のケアマネジャー，訪問看護師そして一般市民とのかかわりはあったが，「骨粗鬆症」について深く学ぶ機会はなかなか作れなかったので，この機会に道場とWEB Café の二本立てを考えた次第である．

## 実際の運営と反響

①骨粗鬆症の専門家（特に骨粗鬆症マネージャーコースの講師）の話をゆっくり一人ずつ伺ってみたい，というニーズは以前からあり，今回それが実現している．短時間の総論講義ではなく，熱意，思い，ビジョンをお聞きすることで受講者に多くの感銘を与えてもらい，行動につながる基盤ができつつある．

②特に薬剤師のかかわる部分について，関心の薄かった薬剤師（骨粗鬆症マネージャーではなく，学会にも参加したことがない薬剤師）から，学会に参加したくなった，本格的に学びたくなった，骨粗鬆症マネージャーになりたいと思ったという反響があった．

③地域の保険薬局薬剤師は，実は理学療法士（PT），作業療法士（OT）とは在宅医療現場などでは顔を突き合わせることはあるのに，どんな仕事をしているのか，違いは何なのかを知らない人も多くいる．今回参加者には非常に理解が得られることとなった．この背景に，介護保険サービスにおいて介護支援専門員（ケアマネジャー）がケアプランを立てるが，そのプランの目標が具体的でない（例えば転ばない～骨折させない，再骨折させない）という目的のために，入っている担当者，例えば薬剤師とPTやOTがどのように連携するかという話し合いやプランが希薄ということもある．OTやPTも実際に保険薬局薬剤師がどのように働いているかを知る機会も少ないことからも地域でこのような機会でお互いの仕事をすることで連携もしやすくなり効率が上がるという期待もある（薬剤師は，OT，PTがどんな仕事をしているのか何となく知っていた：77％，ほとんど知らなかった：15％とあいまいな関係，協働したことがない：85％）．

④WEB Café ということで，他のHAP WEB講座に参加している人たちが，このCaféにも参加してくれたことで，日常，骨粗鬆症の領域にあまり携わらない医療者（在宅医療にかかわる医師や緩和ケア領域の薬剤師や看護師ほか）も参加していただけているという点は注目に値する．日常に潜在している“骨卒中”リスクに触れることで，在宅医療現場や地域の介護現場の視点も大きく変わってくると感じた．

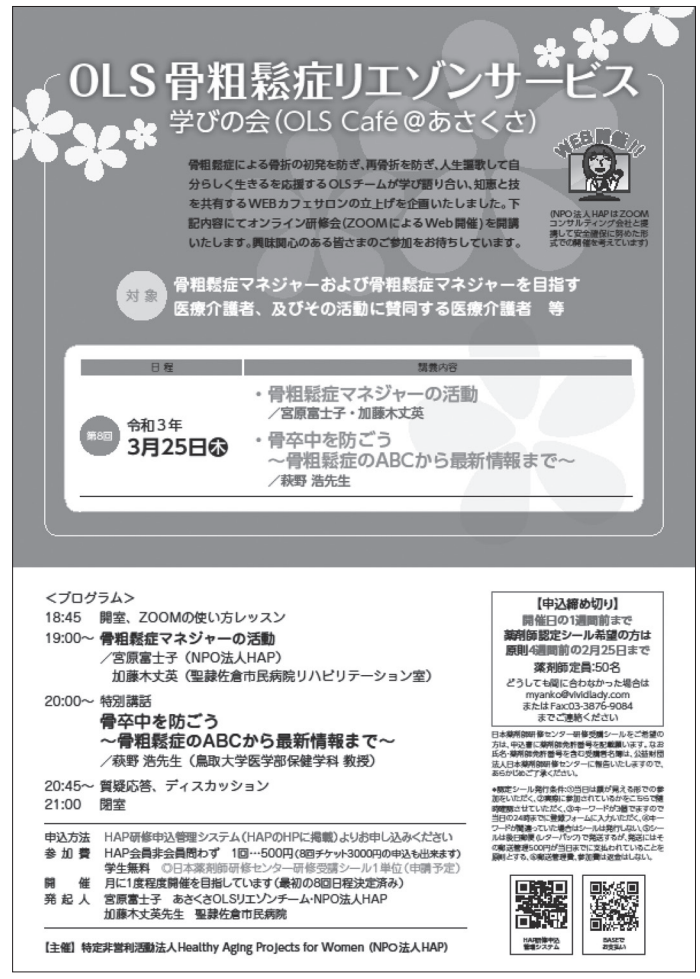


図　WEB OLS Café の案内

## 今回の連続定期 OLS Café 継続での期待

「薬剤師は実は，高血圧症と並んで骨粗鬆症の患者の服薬指導をしている」にもかかわらず「経口薬→注射薬（診療所）への変更時」「骨折による急性期病院への入院→療養型病院→退院時」「長期間骨粗鬆症の治療薬は服薬しているものの検査したとき」など多ポイントで，他職と連携が上手にできていない場面が多いのが現状である．その薬剤師が今回の連続Caféに参加し，「そうだったのか」「そのように連携すればよいのか」などと大きなヒントをもらった．WEBならではの講義とCafé，今までになかった参加者の方たち，地域に根差しつつ，学びと語りの輪が広がってゆくことを実感している．

ぜひ，一度OLS Café へ訪れてみてほしい．案内（図）は3月のものである．毎月1回開催している（HAPで検索してください）．

## 第22回 日本骨粗鬆症学会 OLSかわら版編集チーム推薦演題

# 検診DXA受診者の早期治療介入を目的とした診療放射線技師によるリエゾンサービス

倉敷中央病院放射線技術部[1)]，倉敷中央病院整形外科[2)]
**亀井山弘晃[1)]，高越浩一[1)]，山本和幸[1)]，松下　睦[2)]**

### はじめに

当院付属の健診部門では，2019年6月の新施設開設に伴い骨密度測定(DXA)装置を導入した．また，同年10月より施設内に骨粗鬆症外来が開設され，本院の整形外科医が診療にあたっている．

骨粗鬆症に起因した骨折を未然に防ぐことは予防医療の重要な課題であり，検診レベルで潜在的骨粗鬆症患者を発見し，早期治療介入することが望ましい．しかし，骨粗鬆症は自覚症状が乏しく病気としての認識が低いのが現状である．さらに，健診結果は後日通知されることが多いためDXAの測定値を受診者自身で理解することは難しく，専門医の受診に踏み切れない場合がある．

そこで，当施設ではDXA受診者のうち治療が必要な骨密度低下症例を対象に，診療放射線技師が結果説明を行っている．検査直後に説明を行うことで，骨粗鬆症への理解が深まり治療意識が向上し，早期治療介入が期待できる．

### 取り組みと効果

受診者が検査室に入室すると，手術歴や脆弱性骨折の既往について簡単な問診を行い，撮像・解析までを一連で行う．そして，説明基準(図)に当てはまる骨密度低下症例を対象に結果説明を行う．測定結果を受診者に見てもらいながら若年成人比較(YAM)や骨折リスクについて説明したうえで，専門医の受診を推奨する．さらに，YAM60％未満の高リスク症例には，健診担当医師による当日説明を追加で行う．

2019年6月～2020年1月に検診DXAを行い，測定結果が骨粗鬆症または骨量減少となった659例(説明あり328例，説明なし331例)を対象に当院整形外科および骨粗鬆症外来の受診率を比較すると，説明あり46.3％，説明なし18.9％であり，診療放射線技師が説明を行った群の受診率が高値を示した．さらに，医師による当日説明を追加した場合の受診率は64.9％であり，より効果的であったといえる．

また，測定結果・説明内容・骨折既往等の情報を受診者ごとにデータベース化し放射線技師間で共有しており，以降は過去の結果や説明内容を踏まえた対応が可能である．

### 今後の活動

検査直後に結果説明を行う診療放射線技師の取り組みは，骨粗鬆症の理解や治療意識の向上に一定の効果があると考えられる．今後の取り組みとして，早期治療を必要としない骨量減少の受診者を対象に，保健師や栄養士と協力して運動・栄養指導を実施するなど，一人一人の骨密度の状態に応じた骨折予防に多職種で取り組んでいきたいと考えている．

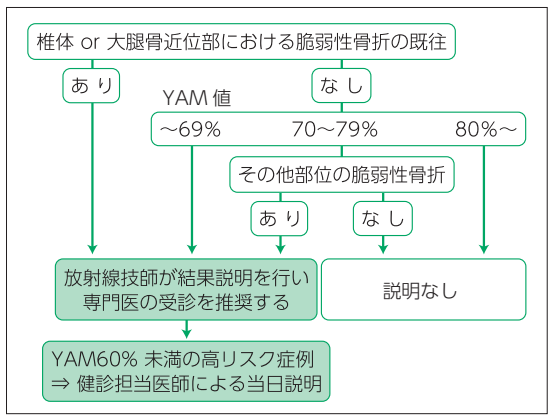


**図　骨密度低下症例に対する説明基準**

# 医療秘書課介入による骨折リスク評価・FRAX®と骨粗鬆症有病率，薬物治療
## ―効果的な一次骨折予防を目指して―

西宮協立脳神経外科病院医療秘書課[1)]，西宮協立脳神経外科病院医療福祉科[2)]，西宮協立脳神経外科病院整形外科[3)]
**安島美佳[1)]，奥村　幸[1)]，溝口真子[1)]，今田美紗[2)]，瀧川直秀[3)]**

### はじめに

兵庫県西宮市の骨粗鬆症検診率(2016年，平均1.6％[1)])は全国平均(2015年，平均5.0％[2)])に比べて低く，未検査・未治療の患者が多いと予測され一次骨折予防は喫緊課題であると考える．そこで今回，FRAX®による骨粗鬆症スクリーニングの結果と骨密度検査を比較検討し，一次骨折予防の有用性を検討した．

### 対象と方法

2018年11月から2019年12月にFRAX®を実施した65歳以上の整形外科外来新規患者952名のうち，主要骨折リスク15％以上であった607名より骨折例を除外し，骨密度検査実施に至った248名(男性26名，女性222名，平均年齢78.4歳)を対象とした．

65歳以上の整形外科新規患者の診察前にFRAX®問診表を記入してもらい，医療秘書課にてFRAX®値を算出した．問診票には当院独自のアンケート項目「骨密度検査を受けてみたいと思いますか？」を追加しており，①受けてみたい，②骨粗鬆症なら受けてみたい，③受けたくない，④現在治療中，より選択してもらった．その後，診察時に医師よりFRAX®の結果説明を行い，希望者に対し骨密度検査を実施し，薬物治療開始へとつなげた．以上に対して，骨粗鬆症有病率，薬物治療導入率について調査した．

### 結果

骨密度検査を実施した対象248名のうちYAM値が70％以下であったのは，163名(有病率：65.7％)であり，そのうち112名(45.2％)の患者に薬物治療が開始された．今回の調査でFRAX®を実施した952名のうち，主要骨折リスク15％以上の患者は607名(63.8％)であった．そのうち骨密度実施に至ったのは248名(40.9％)で，全体の952名から考えると26.1％の実施率となった．

### 考察

当院は2008年4月に医師事務作業補助者として医療秘書課が設立され，そのうち4名が2015年9月よりOLSに介入した．医療秘書課介入によるFRAX®を用いた一次骨折予防は，西宮市と全国の骨粗鬆症検診率を上回る骨密度検査実施率(26.1％)を得ることができた(図)．

骨粗鬆症は自覚症状がなく，骨折歴のない患者を骨密度検査実施へつなげることは容易ではないが，FRAX®を活用したスクリーニングは骨密度検査実施への動機づけとなり効率的に骨粗鬆症潜在患者を掘り起こせることから一次骨折予防に有用なツールであると考えられる．今後も本取り組みを継続するとともに，より一層の啓発活動に取り組んで行きたい．

1) 西宮市ホームページ：新・にしのみや健康づくり・21(第2次)西宮市健康増進計画
2) 山内広世ほか：日本骨粗鬆症学会雑誌 4：513-522, 2018

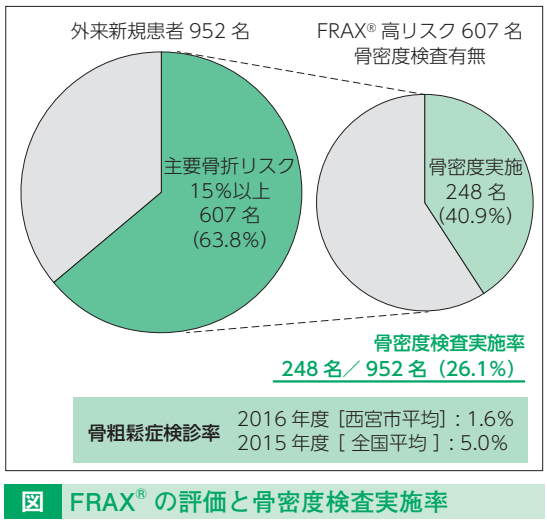


**図　FRAX®の評価と骨密度検査実施率**

## 第22回 日本骨粗鬆症学会 OLSかわら版編集チーム推薦演題

# 地域連携・患者教育を想定した骨粗鬆症データベース作成の試みと限界：QRコードの活用

亀田総合病院リハビリテーション室
**石川修平**

### 当院 OLS チームの成り立ちと活動

当院の OLS チームは，2017 年 12 月に当院脊椎脊髄外科部長をリーダーとして発足した．発足時より，医師，看護師，理学療法士，薬剤師，メディカルソーシャルワーカー，介護福祉士などの多職種が参加していた．発足してまもなく，具体的な OLS 活動を展開するために，県内ですでに積極的に OLS 活動に取り組んでいる病院を見学した．その後，院内スタッフへの講演会や院内情報誌へ骨粗鬆症関連の連載を行うなど，OLS の啓発活動をスタートさせた．さらに，地域住民向けの市民講座の開催や，地域の有料老人ホームで講演会も行うなど，地域の施設との連携強化や，入所者への啓発活動も行ってきた．また，院内の骨粗鬆症治療で活用するための，治療薬選択におけるプロトコルも作成した．

OLS チーム活動を維持するため，会議を月 1 回の定例会議とし，先の協力関係の築けた施設の医師や医療従事者にも参加していただきやすくするために，web 会議の環境を整えた．

### 2020 年度学会発表演題の経緯・概要

今後，骨粗鬆症における地域連携を強化するため，従来型の紹介状による紙面での情報共有以外で，利便性の高いものがないか模索した．医療者側も患者側も検査結果を簡便に閲覧可能なデータベースがあれば，患者教育にもなるのではないかと考え，QR コードを活用した骨粗鬆症データベースの作成をテストデータを用いて試みた．その結果，患者側は個人端末から QR コードを経て，簡便に閲覧可能となり，医療者側もデータ書き込み可能なシステムが構築できた．一方，課題もみえてきた．データは手入力であったことから，操作性の向上が必要であった．また，個人情報の扱いでの関係施設ごとの契約の必要性，さらに，セキュリティやサーバの保守での長期的な運用資金も必要であることがわかった．

### 今後の当院での OLS 活動

地域連携をより図っていくために，事前準備として，医師による地域診療所への直接訪問や，地域診療所医師を対象とした講演会を開催．それによって生まれた関係性を生かすなど，OLS 活動を当院だけでなく，地域診療所とともに行っていく予定である．

図　骨粗鬆症データベース画面（テストデータ）

## 学会からのお知らせ

### ● 2021 年度 OLS 活動奨励賞募集始まる !!

2021 年度の OLS 活動奨励賞の募集が 2 月 1 日より始まっています．

骨粗鬆症マネージャーによる公募を以下の通り実施していますのでご応募をお待ちしています．

**【募集要項】**

主　　催：一般社団法人 日本骨粗鬆症学会
件　　数：3 件以内（副賞 1 件 10 万円）
公募期間：2021 年 2 月 1 日～ 2021 年 4 月 30 日（消印有効）

**【日本骨粗鬆症学会 OLS 活動奨励賞規定】**

目的：OLS 活動における優れた成果を示した活動に対して，その活動を奨励することを目的とする．
対象：骨粗鬆症マネージャー，または骨粗鬆症マネージャーおよびその所属機関／グループとし，国内で行われた OLS 活動に限る．過去に本賞を受賞した者の同一案件での再受賞は認めない．

申請用紙等詳細は下記学会ホームページで確認をお願いします．
http://www.josteo.com/ja/award/ols-syourei/about.html

### ●第 22 回日本骨粗鬆症学会が開催

第 22 回日本骨粗鬆症学会が COVID-19 感染拡大防止のため 2020 年 10 月にオンラインにて開催されました。多くの演題発表と参加者にて成功裡に開催できましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。また同時開催の第 16 回骨粗鬆症マネージャーレクチャーコースもオンラインで開催されました。

Quality of Life
患者さんの健やかな笑顔のために。

一人でも多くの方が生きることを前向きにとらえ、
しあわせを感じられるように。

帝人ファーマ株式会社
東京都千代田区霞が関3-2-1（霞が関コモンゲート西館）
https://www.teijin-pharma.co.jp/